

5-4. 調査関係図表

5-4-1. 南極海関係

南極海鯨類捕獲調査 (JARPA)

調査年次		第1次 (1987/1988)	第2次 (1988/1989)	第3次 (1989/1990)
調査目的		1. ミンククジラの生物学的特性値の推定 2. 南極生態系における鯨類の役割解明	1. ミンククジラの生物学的特性値の推定 2. 南極生態系における鯨類の役割解明	1. ミンククジラの生物学的特性値の推定 2. 南極生態系における鯨類の役割解明
調査海域		IV区の一部 (105°E-115°E)	V区の一部 (168°E-180°)	IV区 (70°E-130°E)
航海期間	出港	1987.12.23 (横浜)	1988.12.17 (横浜)	1989.11.10 (横浜)
	入港	1988.4.20 (東京)	1989.4.24 (東京)	1990.3.31 (東京)
調査期間	開始	1988.1.17	1989.1.12	1989.12.6
	終了	1988.3.26 (70日間)	1989.3.31 (79日間)	1990.3.12 (97日間)
標本数	目標	300	300±10%	300±10%
	実績	273	241	330
使用船舶	調査母船	第3日新丸	第3日新丸	第3日新丸
	標本採集船	第1京丸 第25利丸	第1京丸 第25利丸 第18利丸	第1京丸 第25利丸 第18利丸
	目視専門船			
船団構成	調査団長	加藤秀弘	加藤秀弘	山村和夫
	副調査団長			
	調査員	藤瀬良弘 小野 潔	藤瀬良弘 岡本浩志 吉田英可 石田光洋 中川 進	藤瀬良弘 山本義志 銭谷亮子 石川 創 木村幸嗣 駒場昌幸
	監督官	広山久志	根本博美	根本博美
	乗組員総数	158名	180名	186名
総探索距離		8,482.4マイル	9,614.2マイル	17,094.4マイル
発見数	ミンククジラ	421群1,350頭	635群1,604頭	1,249群3,382頭
	ザトウクジラ	XXX群XXX頭		
	ナガスクジラ	XXX群XXX頭		
特記事項			GPによる調査妨害	

第4次 (1990/1991)	第5次 (1991/1992)	第6次 (1992/1993)	第7次 (1993/1994)
1. ミンククジラの生物学的特性値の推定 2. 南極生態系における鯨類の役割解明	1. ミンククジラの生物学的特性値の推定 2. 南極生態系における鯨類の役割解明	1. ミンククジラの生物学的特性値の推定 2. 南極生態系における鯨類の役割解明	1. ミンククジラの生物学的特性値の推定 2. 南極生態系における鯨類の役割解明
V区 (130°E-170°W)	IV区 (70°E-130°E)	V区 (130°E-170°W)	IV区 (70°E-130°E)
1990.11.24 (横浜)	1991.11.14 (横須賀)	1992.11.7 (横須賀)	1993.11.12 (横須賀)
1991.4.9 (東京)	1992.4.14 (東京)	1993.4.14 (大阪)	1994.4.8 (福岡)
1990.12.19	1991.12.5	1992.12.3	1993.12.3
1990.3.22 (94日間)	1992.3.25 (112日間)	1993.3.25 (113日間)	1994.3.19 (107日間)
300±10%	300±10%	300±10%	300±10%
327	288	330	330
第3日新丸	日新丸	日新丸	日新丸
第1京丸 第25利丸 第18利丸	第1京丸 第25利丸 第18利丸	第1京丸 第25利丸 第18利丸	第1京丸 第25利丸 第18利丸
笠松不二男	藤瀬良弘	藤瀬良弘	西脇茂利
山本義志 銭谷亮子 石川 創 石橋拓也 佐藤晴朗 高嶋一機	石川 創 斎野重夫 長野正嗣 石井健太 川口 創	銭谷亮子 斎野重夫 伊藤俊輔 川崎真弘 松岡耕二 田村 力	石川 創 伊藤俊輔 松岡耕二 油津 訓 永留一喜 山際大志郎 村瀬弘人
池田正樹	酒井照雄	池田正樹	加藤庄作
188名	158名	162名	162名
14,759.9マイル	18,204.5マイル	13,492.3マイル	17,932.6マイル
1,218群2,994頭	1,096群3,731頭	1,333群4,006頭	959群2,823頭
GPによる調査妨害	GPによる調査妨害	GPによる調査妨害	

調査年次		第8次 (1994/1995)	第9次 (1995/1996)	第10次 (1996/1997)
調査目的		1. ミンククジラの生物学的特性値の推定 2. 南極生態系における鯨類の役割解明	1. ミンククジラの生物学的特性値の推定 2. 南極生態系における鯨類の役割解明 3. 環境変動の鯨類に与える影響の解明	1. ミンククジラの生物学的特性値の推定 2. 南極生態系における鯨類の役割解明 3. 環境変動の鯨類に与える影響の解明 4. ミンククジラの系群構造の解明
調査海域		V区 (130°E-170°W)	IV区及びIII区東 (35°E-130°E)	V区及びVI区西 (130°E-145°W)
航海期間	出港	1994.11.10 (横須賀)	1995.11.2 (因島)	1996.11.7 (因島)
	入港	1995.4.13 (東京)	1996.4.19 (長崎)	1997.4.8 (大阪)
調査期間	開始	1994.12.3	1995.11.26	1996.11.30
	終了	1995.3.22 (110日間)	1996.3.22 (118日間)	1997.3.13 (103日間)
標本数	目標	300±10%	400±10%	400±10%
	実績	330	440	440
使用船舶	調査母船	日新丸	日新丸	日新丸
	標本採集船	第1京丸 第25利丸 第18利丸	第1京丸 第25利丸 第18利丸	第1京丸 第25利丸 第18利丸
	目視専門船		第2共新丸	第2共新丸
船団構成	調査団長	西脇茂利	西脇茂利	西脇茂利
	副調査団長			
	調査員	石川 創 伊藤俊輔 嶋本州和 茂越敏弘 河津 尚 町田澄人 山根哲也	石川 創 川崎真弘 嶋本州和 油津 訓 田村 力 茂越敏弘 菱井 徹 吉田 崇 日高宏夫 仁部玄通 福井豊 (客員)	伊藤俊輔 嶋本州和 阿部秀明 油津 訓 下川哲哉 田辺啓太 志道正次 木下智彦 葛西英則 岩田智也 佐野幸輔
	監督官	上田勝彦	山本峰雄	伊藤博理
	乗組員総数	163名	198名	200名
総探索距離		14,038.6マイル	21,455.5マイル	17,755.6マイル
発見数	ミンククジラ	1,095群 3,025頭	1,139群 2,587頭	975群 3,244頭
	ザトウクジラ			
	ナガスクジラ			
特記事項		GPによる調査妨害 伊藤調査員、調査中の怪我により ニュージーランドへ緊急入港する		

第11次 (1997/1998)	第12次 (1998/1999)	第13次 (1999/2000)	第14次 (2000/2001)
1. ミンククジラの生物学的特性値の推定 2. 南極生態系における鯨類の役割解明 3. 環境変動の鯨類に与える影響の解明 4. ミンククジラの系群構造の解明	1. ミンククジラの生物学的特性値の推定 2. 南極生態系における鯨類の役割解明 3. 環境変動の鯨類に与える影響の解明 4. ミンククジラの系群構造の解明	1. ミンククジラの生物学的特性値の推定 2. 南極生態系における鯨類の役割解明 3. 環境変動の鯨類に与える影響の解明 4. ミンククジラの系群構造の解明	1. ミンククジラの生物学的特性値の推定 2. 南極生態系における鯨類の役割解明 3. 環境変動の鯨類に与える影響の解明 4. ミンククジラの系群構造の解明
IV区及びIII区東 (35°E-130°E)	V区及びVI区西 (130°E-145°W)	IV区及びIII区東 (35°E-130°E)	V区及びVI区西 (130°E-145°W)
1997.11.11 (因島)	1998.11.6 (下関)	1999.11.9 (下関)	2000.11.17 (下関)
1998.4.7 (下関)	1999.4.26 (東京)	2000.4.6 (釧路)	2001.4.11 (石巻)
1997.12.7	1999.1.13	1999.12.5	2000.12.11
1998.3.14 (98日間)	1999.3.31 (78日間)	2000.3.10 (97日間)	2001.3.20 (100日間)
400±10%	400±10%	400±10%	400±10%
438	389	439	440
日新丸	日新丸	日新丸	日新丸
第1京丸 第25利丸 第18利丸	勇新丸 第1京丸 第25利丸	勇新丸 第1京丸 第25利丸	勇新丸 第1京丸 第25利丸
第2共新丸	第2共新丸	第2共新丸	第2共新丸
石川 創	西脇茂利	石川創	西脇茂利
			石川 創
松岡耕二 油津 訓 城戸孝昌 下川哲哉 大島和浩 浅田正嗣 一ノ宮大祐 水島雄一郎 中村将人 仁部尚賢 茂越敏弘 (客員)	坂東武治 油津 訓 村瀬弘人 高月 恵 筒井繁行 大久保淳 渡邊政樹 北嶋晃弘 武田慎太郎 音瀬静恵	大谷誠司 茂越敏弘 村瀬弘人 油津 訓 浅田正嗣 竹内滋郎 正木友之 木村啓之 大島卓朗 小長井崇宏 手塚雅文 (客員)	刈屋達也 大谷誠司 阿部憲人 安井一敬 岡村真輔 吉村 勇 高松 道 寺岡卓也 木和田広司 潮崎征孝
上田勝彦	山崎雄一郎	譜久山修	鍋島三千年
204名	200名	194名	195名
21,598.4マイル	7,494.0マイル	16,341.5マイル	20,484.1マイル
860群1,921頭	1,029群3,394頭	1,773群7,559頭	2,080群5,373頭
	日新丸の火災事故 再出港：1999.1.5 (調査母船)	GPによる調査妨害	

調査年次		第15次 (2001/2002)	第16次 (2002/2003)	第17次 (2003/2004)
調査目的		1. ミンククジラの生物学的特性値の推定 2. 南極生態系における鯨類の役割解明 3. 環境変動の鯨類に与える影響の解明 4. ミンククジラの系群構造の解明	1. ミンククジラの生物学的特性値の推定 2. 南極生態系における鯨類の役割解明 3. 環境変動の鯨類に与える影響の解明 4. ミンククジラの系群構造の解明	1. ミンククジラの生物学的特性値の推定 2. 南極生態系における鯨類の役割解明 3. 環境変動の鯨類に与える影響の解明 4. ミンククジラの系群構造の解明
調査海域		Ⅳ区及びⅢ区東 (35°E-130°E)	Ⅴ区及びⅥ区西 (130°E-145°W)	Ⅳ区及びⅢ区東 (35°E-130°E)
航海期間	出港	2001.11.6 (下関)	2002.11.8 (下関)	2003.11.7 (下関)
	入港	2002.4.4 (長崎)	2003.4.3 (高知)	2004.3.31 (函館)
調査期間	開始	2001.11.29	2002.12.2	2003.11.30
	終了	2002.3.9 (101日間)	2003.3.8 (96日間)	2004.3.3 (95日間)
標本数	目標	400±10%	400±10%	400±10%
	実績	440	440	440
使用船舶	調査母船	日新丸	日新丸	日新丸
	標本採集船	勇新丸 第1京丸 第25利丸	勇新丸 第1京丸 第2勇新丸	勇新丸 第1京丸 第2勇新丸
	目視専門船	第2共新丸	第2共新丸	第2共新丸
船団構成	調査団長	石川 創	西脇茂利	石川 創
	副調査団長			
	調査員	大谷誠司 茂越敏弘 木和田広司 吉田 崇 林 倫成 永峰雅彦 福留和貴 小柳武久 佐々木卓 石原 孝 藤平拓磨	村瀬弘人 茂越敏弘 安永玄太 磯田辰也 森 洋介 岩上 広 堀井直人 町田澄人 小川竜佑 岡 龍志 伊藤 真 小長井崇宏	大谷誠司 木和田広司 磯田辰也 本庄賢司 長谷川篤 寺尾竜馬 久志本鉄平 伊藤 真 佐々木卓 大島卓朗 高松 道 佐々木卓 杉山総磨
	監督官	譜久山修	大部寛治	鉢嶺 朗
	乗組員総数	193名	198名	200名
	総探索距離	19,767.4マイル	18,126.2マイル	19,287.4マイル
発見数	ミンククジラ	2,271群5,428頭	2,677群7,290頭	1,195群3,639頭
	ザトウクジラ			
	ナガスクジラ			
特記事項				

第18次 (2004/2005)
1. ミンクケジラの生物学的特性値の推定
2. 南極生態系における鯨類の役割解明
3. 環境変動の鯨類に与える影響の解明
4. ミンクケジラの系群構造の解明
V区及びVI区西 (130°E-145°W)
2004.11.12 (下関)
2005.3.31 (横浜)
2004.12.7
2005.3.8 (92日間)
400±10%
440
日新丸
勇新丸
第1京丸
第2勇新丸
第2共新丸
西脇茂利
後藤睦夫
茂越敏弘
磯田辰也
荻原光仁
長谷川篤
藤平拓磨
小柳武久 (YS1)
葛西英則 (K01)
寺岡卓也 (YS2)
伊藤 真 (KS2)
北嶋晃宏 (KS2)
高岡 隆
202名
18,712.0マイル
1,711群4,400頭

第2期南極海鯨類捕獲調査 (JARPAII)

調査年次		第19次 (2005/2006) —予備調査—	第20次 (2006/2007) —予備調査—	第21次 (2007/2008) —本格調査—	
調査目的		1.南極海生態系のモニタリング 2.鯨種間競合モデルの構築 3.系群構造の時空間的変動の解明 4.クロミンククジラ資源の管理方式の改善	1.南極海生態系のモニタリング 2.鯨種間競合モデルの構築 3.系群構造の時空間的変動の解明 4.クロミンククジラ資源の管理方式の改善	1.南極海生態系のモニタリング 2.鯨種間競合モデルの構築 3.系群構造の時空間的変動の解明 4.クロミンククジラ資源の管理方式の改善	
調査海域		III区東、IV区、V区西及び東の一部 (60°S以南、135°E-175°E)	V区及びVI区西 (60°S以南、130°E-145°W)	III区東、IV区及びV区西 (60°S以南、035°E-165°E)	
航海期間	出港	2005.11.8 (下関)	2006.11.15 (下関)	2007.11.18 (下関)	
	入港	2006.4.14 (金沢)	2007.3.23 (東京)	2008.4.15 (東京)	
調査期間	開始	2005.12.3	2006.12.15	2007.12.15	
	終了	2006.3.20 (108日間)	2007.2.28 (76日間)	2008.3.24 (101日間)	
クロミンククジラ 標本数	目標	850±10%	850±10%	850±10%	
	実績	853	505	551	
ナガスクジラ 標本数	目標	10	10	50	
	実績	10	3	0	
使用船舶	調査母船	日新丸	日新丸	日新丸	
	目視採集船	勇新丸 第2勇新丸 第1京丸	勇新丸 第2勇新丸 第1京丸	勇新丸 第2勇新丸 第3勇新丸	
	目視専門船	第2共新丸 海幸丸	第2共新丸 海幸丸	第2共新丸 海幸丸	
	監視船				
調査団構成	調査団長	西脇茂利	西脇茂利	石川創	
	副調査団長	石川創	松岡耕二	後藤睦夫	
	部長				
	首席調査員	大谷誠司 坂東武治 村瀬弘人 (KK1)	茂越敏弘 小西健志	坂東武治	
	次席調査員			磯田辰也	
	調査員	安永玄太 磯田辰也 熊谷佐枝子 (KS2) 景崇洋 永井裕記 小松和香 伊藤このみ 潮崎征孝 (YS1) 永峰雅彦 (YS2) 小長井崇宏 (K01) 福留和貴 (KS2) 高松道 (KK1)	木和田広司 (KK1) 吉田崇 上田真久 和田淳 熊谷佐枝子 (KK1) 松下由紀子 伊藤博之 須藤怜 中村玄 木村圭佑 (KS2) 林倫成 (KK1) 安喜元紀 (YS1) 佐々木卓 (YS2) 吉村勇 (K01) 大島卓朗 (KS2)	木和田広司 (KK1) 吉田崇 熊谷佐枝子 松本陽 中井和佳 森友彦 吉岡昌平 長谷川美空 加藤溪介 (KS2) 松倉隆一 (KK1) 小柳武久 (YS1) 神田橋聡 (YS2) 川邊伸也 (YS3) 福留和貴 (KS2) 外村直也 (KK1)	
	監督官	高岡隆	伊藤進	中村亮一	
	乗組員総数	251	263	239	
	総探索距離	浬	16,372.7	11,968.9	14,575.4
	発見数 (群/頭)	クロミンククジラ	1,848/4,917	1,023/2,340	926/1,961
ザトウクジラ		1,848/3,454	171/308	1,433/2,753	
ナガスクジラ		224/936	41/267	60/172	
特記事項		GP,SSによる調査妨害	GP,SSによる調査妨害 日新丸の火災事故	GP,SSによる調査妨害	

第22次 (2008/2009) —本格調査—	第23次 (2009/2010) —本格調査—	第24次 (2010/2011) —本格調査—	第25次 (2011/2012) —本格調査—
1. 南極海生態系のモニタリング 2. 鯨種間競合モデルの構築 3. 系群構造の時空間的変動の解明 4. クロミンククジラ資源の管理方式の改善	1. 南極海生態系のモニタリング 2. 鯨種間競合モデルの構築 3. 系群構造の時空間的変動の解明 4. クロミンククジラ資源の管理方式の改善	1. 南極海生態系のモニタリング 2. 鯨種間競合モデルの構築 3. 系群構造の時空間的変動の解明 4. クロミンククジラ資源の管理方式の改善	1. 南極海生態系のモニタリング 2. 鯨種間競合モデルの構築 3. 系群構造の時空間的変動の解明 4. クロミンククジラ資源の管理方式の改善
V区及びVI区西 (60°S以南、130°E-145°W)	III区東、IV区及びV区西 (60°S以南、035°E-175°E)	V区及びVI区西 (60°S以南、130°E-145°W)	V区及びVI区西 (62°S以南、130°E-145°W)
2008.11.17 (因島)	2009.11.19 (因島)	2010.12.2 (因島)	2011.12.6 (因島)
2009.4.14 (下関)	2010.4.12 (東京)	2011.3.21 (東京)	2012.3.31 (下関)
2008.12.10	2009.12.14	2010.12.29	2012.1.1
2009.3.22 (103日間)	2010.3.20 (97日間)	2011.2.18 (52日間)	2012.3.6 (66日間)
850±10%	850±10%	850±10%	850±10%
679	506	170	266
50	50	50	50
1	1	2	1
日新丸	日新丸	日新丸	日新丸
勇新丸 第2勇新丸 第3勇新丸	勇新丸 第2勇新丸	勇新丸 第2勇新丸	勇新丸 第2勇新丸 第3勇新丸
第2共新丸 海幸丸	第3勇新丸 第2昭南丸	第3勇新丸	第2昭南丸
西脇茂利	西脇茂利	石川創	松岡耕二
松岡耕二	田村力	松岡耕二	田村力
坂東武治	坂東武治		
茂越敏弘 木和田広司	磯田辰也	小西健志	磯田辰也 吉田崇
大谷誠司		磯田辰也	和田淳
吉田崇 小西健志 和田淳 (KS2) 米崎史郎 (KK1) 福留和貴 (YS1) 玉橋一字 (YS2) 森根銀士 (YS3) 吉村勇 (KS2) 永峰雅彦 (KK1) 吉田匡佑 (KK1) 佐藤仁美 中井和佳 野村いづみ 田中春樹	吉田崇 熊谷佐枝子 和田淳 中井和佳 小林千尋 肥沼綾子 安喜元紀 (YS1) 小長井崇宏 (YS2) 高松道 (YS3) 大島卓朗 (SM2)	吉田崇 中井和佳 川邊伸也 (YS1) 葛西英則 (YS2) 潮崎征孝 (YS3)	中井和佳 森山竜一郎 (YS1) 山口太志 (YS2) 吉村勇 (YS3)
溝口幹雄	竹内賢士 小泉秀男 (SM2)	溝口幹雄 清水正夫 下間義弘 (YS2) 小泉秀男 (YS3)	船越康郎 畑中亨 佐藤力夫 (SM2) 小泉秀男 (SM2)
240	208	186	194
14,351.5	8,232.0	1,877.2	3,040.5
1,973/4,883	986/2,242	530/1,576	284/684
418/735	603/1,187	44/83	112/208
122/491	56/189	34/120	11/31
SSによる調査妨害	SSによる調査妨害	SSによる調査妨害	SSによる調査妨害

資料

調査年次		第26次 (2012/2013) —本格調査—	第27次 (2013/2014) —本格調査—	第28次 (2014/2015) —目視調査—
調査目的		1. 南極海生態系のモニタリング 2. 鯨種間競合モデルの構築 3. 系群構造の時空間的変動の解明 4. クロミンククジラ資源の管理方式の改善	1. 南極海生態系のモニタリング 2. 鯨種間競合モデルの構築 3. 系群構造の時空間的変動の解明 4. クロミンククジラ資源の管理方式の改善	クロミンククジラを含む鯨類の目視調査及び皮膚標本採集等により、南極海における鯨類資源の資源量の推定に有用な情報を収集すること
調査海域		III区東、IV区及びV区 (62°S以南、035°E-175°E)	V区及びVI区西 (60°S以南、130°E-145°W)	IV区 (60°S以南、070°E-130°E)
航海期間	出港	2012.12.28 (因島)	2013.12.7 (因島)	2015.1.8 (下関)
	入港	2013.4.7 (下関)	2014.4.5 (下関)	2015.3.28 (下関)
調査期間	開始	2013.1.26	2014.1.3	2015.2.1
	終了	2013.3.14 (48日間)	2014.3.13 (70日間)	2015.3.4 (32日間)
クロミンククジラ 標本数	目標	850±10%	850±10%	—
	実績	103	250	—
ナガスクジラ 標本数	目標	50	50	—
	実績	0	0	—
使用船舶	調査母船	日新丸	日新丸	日新丸 (補給船)
	目視採集船	勇新丸 第2勇新丸 第3勇新丸	勇新丸 第2勇新丸 第3勇新丸	勇新丸 第2勇新丸
	目視専門船			
	監視船	第2昭南丸	第2昭南丸	第2昭南丸
調査団構成	調査団長	田村力	松岡耕二	松岡耕二 (YS1)
	副調査団長	茂越敏弘	安永玄太	
	部長		吉田崇	
	首席調査員	磯田辰也 吉田崇	磯田辰也	恒川雅臣 (YS2)
	次席調査員			
	調査員	中井和佳 佐藤仁美 玉橋一字 (YS1) 高松道 (YS2) 森正克 (YS3)	中井和佳 佐藤仁美 坂本渚 上田英正 (YS1) 小長井崇宏 (YS2) 恒川雅臣 (YS3)	山口太志 (YS1) 本間秀人 (YS2)
	監督官	高木雅史 筒井康一 西田宏嗣 (SM2) 畑中亨 (SM2)	重富啓介 倉持政夫 浦隆文 (SM2) 畑中亨 (SM2)	山田洋輔 (SM2) 畑中亨 (SM2)
乗組員総数	178	188	116	
総探索距離	浬	2,103.3	3,182.0	3,869.9
発見数 (群/頭)	クロミンククジラ	149/280	313/531	128/165
	ザトウクジラ	227/412	82/133	837/1,743
	ナガスクジラ	61/241	45/99	104/236
特記事項		SSによる調査妨害	SSによる調査妨害	

新南極海鯨類科学調査 (NEWREP-A)

第1次 (2015/2016) —本格調査—	第2次 (2016/2017) —本格調査—	第3次 (2017/2018) —本格調査—
1. RMPを適用したクロミンククジラの捕獲算出のための生物学的及び生態学的情報の高精度化 2. 生態系モデルの構築を通じた南極海生態系の構造及び動態の研究	1. RMPを適用したクロミンククジラの捕獲算出のための生物学的及び生態学的情報の高精度化 2. 生態系モデルの構築を通じた南極海生態系の構造及び動態の研究	1. RMPを適用したクロミンククジラの捕獲算出のための生物学的及び生態学的情報の高精度化 2. 生態系モデルの構築を通じた南極海生態系の構造及び動態の研究
IV区及びV区 (60°S以南、115°-170°W)	III区東、IV区及びV区 (60°S以南、045°E-165°E)	V区東及びVI区 (60°S以南、165°E-120°W)
2015.12.1 (因島)	2016.11.18 (因島)	2017.11.9 (因島)
2016.3.24 (下関)	2017.3.31 (下関)	2018.3.31 (下関)
2015.12.23	2016.12.15	2017.12.8
2016.2.25 (65日間)	2017.3.7 (83日間)	2018.2.28 (83日間)
333	333	333
333	333	333
—	—	—
—	—	—
日新丸	日新丸	日新丸
勇新丸 第2勇新丸	勇新丸 第2勇新丸 第3勇新丸	勇新丸 第3勇新丸
第3勇新丸	第7開洋丸	第2勇新丸 第7開洋丸
第2昭南丸	第5開洋丸	第5開洋丸
松岡耕二	茂越敏弘	坂東武治
茂越敏弘	磯田辰也	茂越敏弘 (KY7)
吉田崇	吉田崇	吉田崇
磯田辰也 (YS3) 中井和佳	小西健二 (KY7) 中井和佳	中井和佳 山口太志 (YS2)
	山口太志 (YS3)	和田淳 (YS2) 川邊伸也 (KY7)
和田淳 (YS3) 佐藤仁美 佐藤拓也 山崎真弘 (YS1) 藤井健輔 (YS2) 川邊伸也 (YS3)	和田淳 (YS3) 大野慧 神林潤 牟禮広弥 (YS1) 上田英正 (YS2) 森山竜一郎 (YS3) 川邊伸也 (KY7) 番匠俊司郎 (KY7)	神林潤 梅田憲吾 勝俣太貴 (YS2) 牟禮広弥 (YS1) 小南貴司 (YS3) 番匠俊司郎 (KY7) 西村双葉 (奨励研究員) 金瑜真 (奨励研究員)
溝口幹雄 戸澤和彦 川村浩 (SM2) 畑中亨 (SM2)	中屋敷勇治 二川和夫 原田富晴 (KY5) 畑中亨 (KY5)	河上拓史 初瀬昭秀 熊切晴也 (KY5) 畑中亨 (KY5)
182	200	194
3,936.7	11,000.1	9,360.6
556/1,558	481/873	721/1,668
661/1,430	787/1,533	359/551
24/62	118/350	181/378
	第3勇新丸は調査途中より目視専門船から目視採集船へ変更 SSによる調査妨害	

5-4-2. 北西太平洋関係

北西北太平洋ミンククジラ捕獲調査（JARPN）

調査年次		第1次（1994）	第2次（1995）	第3次（1996）
調査目的		1. 系群構造の解明	1. 系群構造の解明	1. 系群構造の解明 2. 摂餌生態
調査海域		9海区	9海区	7、8及び11海区
航海期間	出港	1994.6.30（横須賀）	1995.6.9（横須賀）	1996.7.5（横須賀）
	入港	1994.9.12（東京）	1995.8.22（東京）	1996.9.17（東京）
調査期間	開始	1994.7.5	1995.6.13	1996.7.7
	終了	1994.9.7（65日間）	1995.8.16（65日間）	1996.9.13（69日間）
標本数	目標	M100	M100	M100
	実績	21	100	77
使用船舶	調査母船	日新丸	日新丸	日新丸
	標本採集船	第25利丸 第18利丸	第1京丸 第25利丸 第18利丸	第1京丸 第25利丸 第18利丸
	目視専門船			
船団構成	調査団長	藤瀬良弘	藤瀬良弘	藤瀬良弘
	副調査団長			
	調査員	木白俊哉 銭谷亮子 川崎真弘 松岡耕二 嶋本州和	岩崎俊秀 銭谷亮子 松岡耕二 日高宏夫 吉田崇 田村力 青野さや香 仁部玄通 荒木潤（客員）	島田裕之 銭谷亮子 後藤睦夫 吉田英可 嶋本州和 葛西英則 木下智彦 志道正次 油津訓 田村力 岩田智也 内田明彦（客員） Ulf Lindstrom（客員）
	監督官	加藤庄作	竹内賢士 猪又秀夫 和田雅人	石關直哉 櫻井政和 上田勝彦 伊藤博理
	乗組員総数	116名	151名	185名
総探索距離		6,980.1マイル	11,843.9マイル	12,088.0マイル
発見数	ミンククジラ	45群46頭	144群151頭	171群177頭
	ニタリクジラ	—	—	—
	マッコウクジラ	151群169頭	283群319頭	358群533頭
	イワシクジラ	13群20頭	18群25頭	12群17頭
特記事項				ノルウェーとの共同調査

第4次 (1997)	第5次 (1998)	第6次 (1999)
1. 系群構造の解明 2. 摂餌生態	1. 系群構造の解明 2. 摂餌生態	1. 系群構造の解明 2. 摂餌生態
7東、8及び9海区	7東、8及び11海区	7及び11海区
1997.5.1 (横須賀)	1998.5.1 (横須賀)	1999.6.15 (因島)
1997.7.18 (東京)	1998.6.17 (石巻)	1999.7.20 (東京)
1997.5.6	1998.5.2	1999.6.19
1997.7.14 (70日間)	1998.6.14 (44日間)	1999.7.15 (27日間)
M100	M100	M100
100	100	100
日新丸	日新丸	日新丸
第1京丸 第25利丸 第18利丸	第1京丸 第25利丸 第18利丸	勇新丸 第1京丸 第25利丸
第2共新丸	第2共新丸	第2共新丸
石川創	藤瀬良弘	藤瀬良弘
	銭谷亮子 (兼NM生物首席)	銭谷亮子
油津訓 (NM生物首席) 嶋本州和 (NM) 坂東武治 (NM) 葛西英則 (K01) 木下智彦 (T25) 大島和浩 (NM) 水島雄一郎 (T18) 倉持利明 (客員) 細山剛 (客員) 岩上寛 仁部尚賢	松岡耕二 (NM目視首席) 市橋秀樹 (NM) 田村力 (NM) 坂東武治 (NM) 下川哲哉 (NM) Andrei S. Krasnenko (NM) 渡邊政樹 (K01) 中村将人 (T18) 一ノ宮大祐 (T25) 村瀬弘人 (KS2) 音瀬静恵 (KS2)	田村力 (NM) 坂東武治 (NM) 大谷誠司 (NM) 武田慎太郎 (K01) 北嶋晃宏 (T25) 木村啓之 (YS1) 正木友之 (KS2)
渡辺和俊 上田勝彦 松山浩二	石高賢治 川原重幸	長野正嗣 鍋島三千年
192名	190名	182名
12,155.5マイル	4,944.5マイル	2571.2マイル
134群 140頭	155群 165頭	165群 176頭
—	1群 1頭	1群 1頭
166群 243頭	99群 248頭	13群 16頭
25群 32頭	2群 2頭	8群 8頭

第2期北西太平洋鯨類捕獲調査 (JARPN II)

調査年次		第1次 (2000) —予備調査—	第2次 (2001) —予備調査—	第3次 (2002) —本格調査—	第4次 (2003) —本格調査—
調査目的		1. 系群構造の解明 2. 摂餌生態	1. 系群構造の解明 2. 摂餌生態	1. 系群構造の解明 2. 摂餌生態	1. 摂餌生態の解明 2. 海洋環境調査 3. 系群構造の解明
調査海域		7、8及び9海区	7、8及び9海区	7、8及び9海区	7、8及び9海区
航海期間	出港	2000.7.29 (因島)	2001.5.10 (因島)	2002.6.29 (因島)	2003.5.13 (因島)
	入港	2000.9.21 (東京)	2001.8.7 (東京)	2002.9.23 (釧路)	2003.8.13 (石巻)
調査期間	開始	2000.8.1	2001.5.14	2002.7.5	2003.5.17
	終了	2000.9.16 (47日間)	2001.8.3 (82日間)	2002.9.18 (76日間)	2003.8.8 (84日間)
標本数	目標	M100/B50/Sp10	M100/B50/Sp10	M100/B50/Se50/Sp10	M100/B50/Se50/Sp10
	実績	40/43/5	100/50/8	100/50/39/5	100/50/50/10
使用船舶	調査母船	日新丸	日新丸	日新丸	日新丸
	標本採集船	勇新丸 第1京丸 第25利丸	勇新丸 第1京丸 第25利丸	勇新丸 第1京丸 第25利丸	第2勇新丸 勇新丸 第1京丸
	目視専門船	第2共新丸	第2共新丸	第2共新丸	第2共新丸/昭南丸
	餌生物調査船	俊鷹丸	とりしま	俊鷹丸	俊鷹丸
船団構成	調査団長	藤瀬良弘	藤瀬良弘	藤瀬良弘	藤瀬良弘
	副調査団長	Luis A. Pastene 根本勝雄	重宗弘久		田村力
	調査員	田村力 坂東武治 茂越敏弘 高松道 大島卓朗 小長井崇宏 村瀬弘人 木和田広司 吉村勇	田村力 坂東武治 安永玄太 上田真久 大谷誠司 小西健志 茂越敏弘 稲森幹雄 潮崎征孝 小柳武久 永峰雅彦 木和田広司 寺岡卓也	田村力 坂東武治 安永玄太 小西健志 磯田辰也 尾留川直子 堀井直人 岡龍志 小川竜佑 佐々木卓 伊藤真 福留和貴	坂東武治 安永玄太 小西健志 磯田辰也 本庄賢司 松岡大記 木和田広司 小長井崇宏 高松道 大島卓朗 伊藤真 町田澄人 Kirail A. Zharikov (招待) AN, Youg-Rock (招待) 福井豊 (客員)
	監督官	日向寺二郎 譜久山修	鍋島三千年 日向寺二郎	佐藤英輔 長友隆典 鍋島三千年	光富喜一郎 畠中繁宏 森田浩史
	乗組員総数	221名	211名	233名	254名
総探索距離		7,284マイル	14,359.6マイル	11,497.3マイル	12,122.8マイル
発見数	ミンククジラ	66群68頭	133群136頭	133群141頭	122群125頭
	ニタリクジラ	142群188頭	64群77頭	100群129頭	148群193頭
	マッコウクジラ	165群400頭	326群948頭	259群556頭	325群935頭
	イワシクジラ	18群33頭	110群148頭	117群207頭	145群236頭
特記事項					

第5次 (2004) —本格調査—	第6次 (2005) —本格調査—	第7次 (2006) —本格調査—	第8次 (2007) —本格調査—	第9次 (2008) —本格調査—
1. 摂餌生態の解明 2. 海洋環境調査 3. 系群構造の解明	1. 摂餌生態の解明 2. 海洋環境調査 3. 系群構造の解明	1. 摂餌生態の解明 2. 海洋環境調査 3. 系群構造の解明	1. 摂餌生態の解明 2. 海洋環境調査 3. 系群構造の解明	1. 摂餌生態の解明 2. 海洋環境調査 3. 系群構造の解明
7、8及び9海区	7、8及び9海区	7、8及び9海区	7、8及び9海区	7、8及び9海区
2004.6.10 (因島)	2005.5.13 (下関)	2006.5.23 (因島)	2007.5.12 (因島)	2008.6.6 (大井)
2004.9.24 (釧路)	2005.8.19 (石巻)	2006.8.21 (函館)	2007.8.18 (石巻)	2008.8.23 (大井)
2004.6.15	2005.5.18	2006.5.24	2007.5.18	2008.6.10
2004.9.18 (96日間)	2005.8.16 (91日間)	2006.8.16 (85日間)	2007.8.14 (89日間)	2008.8.18 (70日間)
M100/B50/Se100/Sp10	M100/B50/Se100/Sp10	M100/B50/Se100/Sp10	M100/B50/Se100/Sp10	M100/B50/Se100/Sp10
100/50/100/3	100/50/100/5	100/50/100/6	100/50/100/3	59/50/100/2
日新丸	日新丸	日新丸	日新丸	日新丸
第2勇新丸 勇新丸 第1京丸	第2勇新丸 勇新丸 第1京丸	第2勇新丸 勇新丸 第1京丸	第2勇新丸 勇新丸 第1京丸	第3勇新丸 第2勇新丸 勇新丸
第2共新丸	第2共新丸/昭南丸	第2共新丸	第2共新丸/海幸丸	第2共新丸/海幸丸
俊鷹丸	俊鷹丸			俊鷹丸
藤瀬良弘	田村力	田村力	松岡耕二	田村力
田村力		松岡耕二		
茂越敏弘 安永玄太 小西健志 木和田広司 上田真久 佐々木卓 寺岡卓也 杉山総磨 北嶋晃宏 Kirill A. Zharikov Jong-Hun NA	大谷誠司 (NM生物主席) 小西健志 (NM) 磯田辰也 (NM) 荻原光仁 (NM) 長谷川篤 (NM) 早坂航平 (NM) 小松和香 (NM) 小柳武久 (YS2) 葛西英則 (YS1) 潮崎征孝 (K01) 木和田広司 (KS2) 和田淳 (KS2/NM) 永峰雅彦 (KS2) 熊谷佐枝子 (KS2) Kirill A. Zharikov Jong-Hun NA	坂東武治 (船団運行主席) 茂越敏弘 (NM生物主席) 小西健志 (NM生物次席) 船坂徳子 (NM) 坂尻啓 (NM) 吉田悠貴 (NM) 岡本亮介 (NM) 高松道 (YS2) 桑岡潤 (K01) 熊谷佐枝子 (KS2) 木村圭佑 (KS2) 小長井崇宏 (KS2)	大谷誠司 (NM生物首席) 磯田辰也 (NM) 和田淳 (NM) 船坂徳子 (NM) 須藤玲 (NM) 鈴木遥 (NM) 吉村勇 (YS2) 杉山総磨 (YS1) 大島卓朗 (K01) 熊谷佐枝子 (KS2) 安喜元紀 (KS2) 村瀬弘人 (KK1) 松倉隆一 (KK1) Mohammad Musharraf BHUIYAN (客員)	大谷誠司 (NM生物首席) 磯田辰也 (NM生物次席) 中井和佳 (NM) 佐藤仁美 (NM) 野村いづみ (NM) 永塚翔佳 (NM) 馬谷真弘 (NM) 神田橋聡 (YS3) 川邊伸也 (YS2) 高松道 (YS1) 和田淳 (KS2) 小柳武久 (KS2) 米崎史郎 (KK1) 恒川雅臣 (KK1)
八木澤功 中野荘次 川口勝司	末次昂之	末次昂之	末次昂之	末次昂之
238名	238名	211名	242名	246名
10,695.4マイル	12,697.4マイル	12,245.3マイル	11,416.4マイル	5,757.6マイル
119群119頭	113群114頭	131群134頭	146群148頭	64群66頭
130群180頭	83群110頭	133群172頭	260群376頭	170群234頭
292群523頭	186群337頭	181群330頭	231群620頭	141群277頭
257群385頭	311群503頭	209群326頭	298群548頭	229群386頭

資料

調査年次		第10次(2009) —本格調査—	第11次(2010) —本格調査—	第12次(2011) —本格調査—	第13次(2012) —本格調査—
調査目的		1. 摂餌生態の解明 2. 海洋環境調査 3. 系群構造の解明	1. 摂餌生態の解明 2. 海洋環境調査 3. 系群構造の解明	1. 摂餌生態の解明 2. 海洋環境調査 3. 系群構造の解明	1. 摂餌生態の解明 2. 海洋環境調査 3. 系群構造の解明
調査海域		7、8及び9海区	7、8及び9海区	7、8及び9海区	7、8及び9海区
航海期間	出港	2009.5.10(因島)	2010.6.9(因島)	2011.6.11(因島)	2012.5.16(因島)
	入港	2009.7.29(大井)	2010.8.22(大井)	2011.9.5(大井)	2012.8.3(大井)
調査期間	開始	2009.5.16	2010.6.10	2011.6.16	2012.5.21
	終了	2009.7.25(71日間)	2010.8.18(70日間)	2011.8.30(76日間)	2012.7.28(69日間)
標本数	目標	M100/B50/Se100/Sp10	M100/B50/Se100/Sp10	M100/B50/Se100/Sp10	M100/B50/Se100/Sp10
	実績	43/50/100/1	14/50/100/3	49/50/95/1	74/34/100/3
使用船舶	調査母船	日新丸	日新丸	日新丸	日新丸
	標本採集船	第3勇新丸 第2勇新丸	第2勇新丸 勇新丸	第2勇新丸 勇新丸	第2勇新丸 勇新丸
	目視専門船	勇新丸	第3勇新丸	第3勇新丸	第3勇新丸
	餌生物調査船	俊鷹丸	北光丸	北光丸	俊鷹丸
船団構成	調査団長	坂東武治	安永玄太	田村力	坂東武治
	副調査団長				茂越敏弘
	調査員	木和田広司(NM目視首席) 茂越敏弘(NM生物首席) 磯田辰也(NM生物次席) 中井和佳(NM) 佐藤仁美(NM) 田中春樹(NM) 稲垣美穂(NM) 吉田匡佑(YS3) 森根銀士(YS2) 玉橋一宇(YS1)	木和田広司(NM目視記録首席) 茂越敏弘(NM生物首席) 和田淳(NM生物次席) 中井和佳(NM) 佐藤仁美(NM) 坂本渚(NM) 大島卓郎(YS2) 葛西英則(YS1) 吉村勇(YS3)	茂越敏弘(NM生物首席) 中井和佳(NM) 上田英正(NM) 山崎真弘(NM) 石川雄一郎(奨励研究員) 山口太志(YS2) 川邊伸也(YS1) 恒川雅臣(YS3)	磯田辰也(NM生物首席) 和田淳(NM生物次席) 宮川尚子(奨励研究員) 門脇一郎(奨励研究員) 森山竜一郎(YS2) 玉橋一宇(YS1) 吉村勇(YS3)
	監督官	末次昂之	末次昂之	末次昂之	末次昂之
	乗組員総数	246名	201名	208名	179名
総探索距離		3,757マイル	3,749マイル	5,156マイル	2,326マイル
発見数	ミンククジラ	51群52頭	15群15頭	52群53頭	82群86頭
	ニタリクジラ	72群87頭	104群136頭	122群149頭	70群86頭
	マッコウクジラ	82群167頭	94群193頭	181群295頭	84群218頭
	イワシクジラ	213群386頭	188群333頭	198群476頭	170群304頭
特記事項					

第14次 (2013) —本格調査—	第15次 (2014) —本格調査—	第16次 (2015) —本格調査—	第17次 (2016) —本格調査—
1. 摂餌生態の解明 2. 海洋環境調査 3. 系群構造の解明	1. 摂餌生態の解明 2. 海洋環境調査 3. 系群構造の解明	1. 摂餌生態の解明 2. 海洋環境調査 3. 系群構造の解明	1. 摂餌生態の解明 2. 海洋環境調査 3. 系群構造の解明
7、8及び9海区	7、8及び9海区	7、8及び9海区	7、8及び9海区
2013.7.25 (因島)	2014.5.16 (因島)	2015.6.11 (因島)	2016.5.13 (因島)
2013.10.7 (大井)	2014.7.29 (大井)	2015.8.24 (大井)	2016.7.26 (仙台)
2013.7.30	2014.5.20	2015.6.13	2016.5.16
2013.10.2 (65日間)	2014.7.25 (67日間)	2015.8.18 (67日間)	2016.7.21 (67日間)
M100/B50/Se100/Sp10	B25/Se90	B25/Se90	B25/Se90
3/28/100/1	25/90	25/90	25/90
日新丸	日新丸	日新丸	日新丸
第2勇新丸 勇新丸	第2勇新丸 勇新丸	第2勇新丸 勇新丸	第2勇新丸 勇新丸
第3勇新丸/第2昭南丸	第3勇新丸	第2昭南丸	
俊鷹丸			
坂東武治	田村力	坂東武治	坂東武治
小西健志	上田真久	磯田辰也	小西健志
和田淳 (NM生物首席) 及川宏之 (NM) 佐藤仁美 (NM) 上田英正 (YS2) 小長井崇宏 (YS1) 安喜元紀 (YS3/SYO2))	中井和佳 (NM生物次席) 坂本渚 (NM) 興津裕太 (NM) 加藤孝一朗 (奨励研究員) 吉井孝平 (奨励研究員) 山口太志 (YS2) 本間秀人 (YS1) 川邊伸也 (YS3)	中井和佳 (NM生物首席) 佐藤仁美 (NM) 興津裕太 (NM) 本間秀人 (YS2) 山崎真弘 (YS1) 吉田崇 (SYO2)	中井和佳 (NM生物首席) 山形悠斗 (NM) 佐藤海夢 (NM) 牟禮広弥 (YS2) 森山竜一郎 (YS1)
末次昂之	倉持政夫	末次昂之	倉持政夫
170名	165名	153名	140名
1,846マイル	3,307マイル	1,762マイル	2,662マイル
3群3頭	2群2頭	3群3頭	2群2頭
47群56頭	94群116頭	119群156頭	94群104頭
123群167頭	94群116頭	72群128頭	56群147頭
282群442頭	195群346頭	198群265頭	270群444頭

第2期北西太平洋鯨類捕獲調査（JARPN II）沿岸域調査

調査年次		第1次（2003） －予備調査－	第2次（2005） －本格調査－	第3次（2006） －本格調査－	第4次（2007） －本格調査－	第5次（2008） －本格調査－
調査目的		実行可能性の検討	1. 摂餌生態の解明 2. 餌生物嗜好性の解明 3. 摂餌量の推定	1. 摂餌生態の解明 2. 餌生物嗜好性の解明 3. 摂餌量の推定	1. 摂餌生態の解明 2. 餌生物嗜好性の解明 3. 摂餌量の推定	1. 摂餌生態の解明 2. 餌生物嗜好性の解明 3. 摂餌量の推定
調査海域		宮城県鮎川港を中心とする半径50マイル以内の沿岸域	宮城県鮎川港を中心とする半径50マイル以内の沿岸域	宮城県鮎川港を中心とする半径50マイル以内の沿岸域	宮城県鮎川港を中心とする半径50マイル以内の沿岸域	宮城県鮎川港を中心とする半径50マイル以内の沿岸域
調査期間	開始	2003.4.8	2005.4.11	2006.4.12	2007.4.16	2008.4.14
	終了	2003.5.2	2005.5.21	2006.5.24	2007.5.31	2008.5.18
標本数	目標	M50	M60	M60	M60	M60
	実績	50	60	60	57	60
使用船舶	標本採集船	第28大勝丸 第75幸栄丸 第7勝丸 第31純友丸	第28大勝丸 第75幸栄丸 第7勝丸 第31純友丸	第28大勝丸 第75幸栄丸 第7勝丸 第31純友丸	第28大勝丸 第75幸栄丸 第7勝丸 第31純友丸	第28大勝丸 第75幸栄丸 第7勝丸 第31純友丸
	目視専門船	昭南丸	昭南丸	第2昭南丸		
	餌生物調査船	第7開洋丸	拓洋丸	拓洋丸	拓洋丸	拓洋丸
船団構成	調査団長	吉田英可	吉田英可	後藤睦夫	坂東武治	安永玄太
	副調査団長					
	調査員	木白俊哉 岩崎俊秀 宮下富夫 田端茂夫 岡本亮介 榑原瑞樹 富沢保浩 玉井勘次 漁野為夫 原孝宏 斎野重夫 林岳信 福岡正晃	齋藤輝雄 木白俊哉 宮下富夫 岩崎俊秀 田端茂夫 富沢保浩 盛田祐加 佐藤仁美 岡田梓 斎野重夫 黒石壽 戎井忠 中井和佳	齋藤輝雄 田端茂夫 盛田祐加 佐藤仁美 岡本亮介 前田ひかり 小田川絢 戎井忠 中井和佳 松本陽 藤森聡	齋藤輝雄 安永玄太 田端茂夫 盛田祐加 岡本亮介 前田ひかり 稲垣美穂 永塚翔佳 戎井忠 中井和佳 松本陽 五木田晃宏	齋藤輝雄 及川宏之 田端茂夫 岡本亮介 中村玄 前田ひかり 井上聡子 大谷誠司 岩崎俊秀 金治佑 茂越敏弘 村瀬弘人 和田淳 中井和佳 松本陽 五木田晃宏 山崎啓
	監督官					
乗組員総数						
総探索距離		3,833.6マイル	5,245.8マイル	6,340.0マイル	7,793.7マイル	5,275.9マイル
発見数	ミンククジラ	184群188頭	202群205頭	139群143頭	166群171頭	94群96頭
特記事項						

第6次 (2009) —本格調査—	第7次 (2010) —本格調査—	第8次 (2011) —本格調査—	第9次 (2012) —本格調査—	第10次 (2013) —本格調査—	第11次 (2014) —本格調査—
1. 摂餌生態の解明 2. 餌生物嗜好性の解明 3. 摂餌量の推定	1. 摂餌生態の解明 2. 餌生物嗜好性の解明 3. 摂餌量の推定	1. 摂餌生態の解明 2. 餌生物嗜好性の解明 3. 摂餌量の推定	1. 摂餌生態の解明 2. 餌生物嗜好性の解明 3. 摂餌量の推定	1. 摂餌生態の解明 2. 餌生物嗜好性の解明 3. 摂餌量の推定	1. 摂餌生態の解明 2. 餌生物嗜好性の解明 3. 摂餌量の推定
宮城県鮎川港を中心とする半径50マイル以内の沿岸域	宮城県鮎川港を中心とする半径50マイル以内の沿岸域	釧路港を中心とした半径50マイル内の沿岸域	宮城県鮎川港を中心とする半径50マイル以内の沿岸域	宮城県鮎川港を中心とする半径50マイル以内の沿岸域	宮城県鮎川港を中心とする半径50マイル以内の沿岸域
2009.4.22	2010.4.22	2011.4.25	2012.4.12	2013.4.18	2014.4.26
2009.5.21	2010.6.7	2011.6.10	2012.5.26	2013.6.3	2014.6.11
M60	M60	M60	M60	M60	M60
60	45	17	60	34	30
第28大勝丸 第75幸栄丸 第7勝丸 第31純友丸	第28大勝丸 第75幸栄丸 第7勝丸 第31純友丸	第7勝丸 第51純友丸 正和丸	第28大勝丸 第8幸栄丸 第7勝丸 第51純友丸	第28大勝丸 第8幸栄丸 第7勝丸 第51純友丸	第28大勝丸 第8幸栄丸 第7勝丸 第51純友丸
拓洋丸	拓洋丸				みやしお
安永玄太	坂東武治 安永玄太	安永玄太	安永玄太	安永玄太 坂東武治	茂越敏弘 坂東武治
		伊藤信之	伊藤信之	伊藤信之	伊藤信之
及川宏之 田端茂夫 中村玄 前田ひかり 井上聡子 宮川尚子 蛭田密 田村力 熊谷佐枝子 岩崎俊秀 渡邊光 金治佑 山崎啓 米原優太	及川宏之 田端茂夫 中村玄 前田ひかり 宮川尚子 銭谷亮子 善如寺唯 米原優太 石川雄一郎 恒川雅臣 福留和貴 安喜元紀 山崎啓 堤太一 北山和也	和田淳 中村玄 前田ひかり 井上聡子 宮川尚子 石川雄一郎 鈴木伸行 堤太一 門脇一郎 木和田広司 佐藤仁美 北山和也	及川宏之 中村玄 前田ひかり 井上聡子 北山和也 門脇一郎 玉井希 宮川尚子 石川雄一郎 石田梢 鈴木伸行 小林希実 佐藤仁美 熊谷佐枝子 坂本渚	中村玄 宮川尚子 井上聡子 北山和也 門脇一郎 福本愛子 北村海太 古山雄祐 太田賢良 小林希実 佐藤仁美 熊谷佐枝子 坂本渚	中村玄 宮川尚子 高橋萌 福本愛子 太田賢良 古山雄祐 廣瀬亜由美 加藤孝一朗 林凌太朗 吉井孝平 熊谷佐枝子 磯田辰也 蛭田密 佐藤仁美 坂本渚 及川宏之
4,756.08マイル	8,957.0マイル	3,867.4マイル	6,488.1マイル	7,188.3マイル	5,745.1マイル
111群 112頭	62群 62頭	36群 43頭	95群 97頭	59群 59頭	51群 51頭

資料

調査年次		第12次(2015) －本格調査－	第13次(2016) －本格調査－
調査目的		1. 摂餌生態の解明 2. 餌生物嗜好性の解明 3. 摂餌量の推定	1. 摂餌生態の解明 2. 餌生物嗜好性の解明 3. 摂餌量の推定
調査海域		宮城県鮎川港を中心とする半径50マイル以内の沿岸域	宮城県鮎川港を中心とする半径50マイル以内の沿岸域
調査期間	開始	2015.4.10	2016.4.9
	終了	2015.5.26	2016.5.25
標本数	目標	M51	M51
	実績	19	16
使用船舶	標本採集船	第28大勝丸 第8幸栄丸 第7勝丸 第51純友丸	第28大勝丸 第8幸栄丸 第7勝丸 第51純友丸
	目視専門船		
	餌生物調査船	みやしお	みやしお
船団構成	調査団長	茂越敏弘	安永玄太
	副調査団長	伊藤信之	伊藤信之
	調査員	磯田辰也 中村玄 宮川尚子 石田梢 高橋萌 太田賢良 廣瀬亜由美 加藤孝一朗 林凌太郎 吉井孝平 勝俣太貴 小林希実 熊谷佐枝子 蛭田密 興津裕太	磯田辰也 中村玄 廣瀬亜由美 林凌太郎 吉井孝平 キムユジン 赤城稔 中條謙 西村双葉 浅野裕子 尾崎里紗 山田涼太 小泉ちひろ 勝俣太貴 熊谷佐枝子 佐藤仁美 坂口充則 神林潤
	監督官		
	乗組員総数		
総探索距離		5,776マイル	5432.7マイル
発見数	ミンククジラ	33群33頭	28群28頭
特記事項			

新北西太平洋鯨類科学調査 (NEWREP-NP)

調査年次		第1次 (2017)
調査目的		日本沿岸域におけるミンククジラの精緻な捕獲枠算出 沖合におけるイワシクジラの妥当な捕獲枠算出
調査海域		7、8及び9海区
航海期間	出港	2017.6.15 (因島)
	入港	2017.9.26 (仙台)
調査期間	開始	2017.6.19
	終了	2017.9.23 (97日間)
標本数	目標	M43/Se134
	実績	43/134
使用船舶	調査母船	日新丸
	標本採集船	勇新丸 第3勇新丸
	目視専門船	
	餌生物調査船	
船団構成	調査団長	小西健志
	副調査団長	磯田辰也
	調査員	中井和佳 (NM生物首席) 及川宏之 (NM) 神林潤 (NM) 打田菜由果 (NM) 植田悠 (YS1) 小南貴司 (YS3)
	監督官	倉持政夫
	乗組員総数	136名
総探索距離		5,307マイル
発見数	ミンククジラ	56群61頭
	ニタリクジラ	22群27頭
	マッコウクジラ	215群365頭
	イワシクジラ	320群407頭
特記事項		

5-4-3. IDCR/SOWER, POWER

IDCR/SOWER

調査年次		第1次 (1978/79) IDCR (CPI : 1周目)	第2次 (1979/80) IDCR (CPI : 1周目)	第3次 (1980/81) IDCR (CPI : 1周目)	第4次 (1981/82) IDCR (CPI : 1周目)
調査目的					
調査海域		IV	III	V	II
航海期間	出港	1978.12.12 (フリーマントル)	1979.12.20 (ケープタウン)	1980.12.17 (ウェリントン)	1981.12.19 (ブエノスアイレス)
	入港	1979.2.14 (フリーマントル)	1980.2.21 (ケープタウン)	1981.2.12 (ウェリントン)	1982.2.14 (ケープタウン)
調査期間	開始	1978.12.28	1979.12.27	1980.12.22	1981.12.27
	終了	1979.2.7 (42日間)	1980.2.14 (50日間)	1981.2.6 (47日間)	1982.2.6 (42日間)
総探索距離		7,953.0マイル	7,157.7マイル	7,170.0マイル	6,581.8マイル
主要発見鯨種	クロミンククジラ	1,021群5,253頭	1,046群4,357頭	1,896群7,619頭	507群
	シロナガスクジラ	2群3頭	12群21頭	5群9頭	2群
	ナガスクジラ	2群4頭	4群20頭	17群55頭	3群
	イワシクジラ	2群3頭	3群8頭	4群6頭	3群
	ザトウクジラ	27群49頭	35群66頭	13群25頭	3群
	マッコウクジラ	45群134頭	28群47頭	100群124頭	13群
	シャチ	70群645頭	34群334頭	100群124頭	14群
使用船舶	調査船1	第16利丸	第27京丸	第27京丸	昭南丸
	調査船2	第18利丸	第11利丸	第11利丸	第2昭南丸
	調査船3	—	—	Vdumchiviy No.34 (ソ連)	Vdumchiviy No.34 (ソ連)
	調査船4	—	—	—	—
調査員 *: 調査団長	調査船1	Peter B. Best* (南アフリカ) Durant Hembree (オーストラリア) 山村和夫 (日本)	J. Horwood* (イギリス) 加藤秀弘 (日本) L. Tsunoda (アメリカ)	Peter B. Best* (南アフリカ) Gerald G. Joyce (アメリカ) 笠松不二男 (日本)	Durant Hembree* (オーストラリア) C. Potter (アメリカ) 笠松不二男 (日本)
	調査船2	L. Tsunoda (アメリカ) 加藤秀弘 (日本) J. K. O'Leary (アメリカ)	Durant Hembree (オーストラリア) 笠松不二男 (日本) M. Meyer (南アフリカ)	L. Tsunoda (アメリカ) Paul Ensor (ニュージーランド) 宮崎信之 (日本)	Gerald G. Joyce (アメリカ) M. Meyer (南アフリカ) 長田昭二 (日本) T. Waters (イギリス)
	調査船3	—	—	Durant Hembree (オーストラリア) Richard A. Rowlett (アメリカ) A. Rovnin (ソ連) 加藤秀弘 (日本)	Richard A. Rowlett (アメリカ) M. Baylon (ブラジル) A. Karpenko (ソ連) P. Lourega (ブラジル) A. Sazhinov (ソ連)
	調査船4	—	—	—	—
乗組員	調査船1	Kitayama Kazuo 船長以下18名	長田昭二船長以下18名	山下一彦船長以下18名	中西三次船長以下18名
	調査船2	山下一彦船長以下18名	Suzuki Shigeru 船長以下18名	Uchiike Ikuo 船長以下18名	Suzuki Shigeru 船長以下18名
	調査船3	—	—	Gennady Garmanov 船長以下30名	Gennady Garmanov 船長以下30名
	調査船4	—	—	—	—
特記事項					

第5次 (1982/83) IDCR (CPI : 1周目)	第6次 (1983/84) IDCR (CPI : 1周目)	第7次 (1984/85) IDCR (CPI : 1周目、実験)	第8次 (1985/86) IDCR (CPII : 2周目)	第9次 (1986/87) IDCR (CPII : 2周目)
I	VI	IV	V	II
1982.12.30 (ウシュアイア)	1983.12.29 (ウェリントン)	1984.12.21 (フリーマントル)	1985.12.18 (ウェリントン)	1986.12.27 (ウシュアイア)
1983.2.26 (ウェリントン)	1984.3.1 (ウェリントン)	1985.3.1 (フリーマントル)	1986.2.24 (ウェリントン)	1987.2.20 (ポートルイス)
1983.1.2	1984.1.4	1984.12.29	1985.12.22	1986.12.28
1983.2.15 (45日間)	1984.2.19 (47日間)	1985.2.19 (53日間)	1986.2.18 (59日間)	1987.2.4 (39日間)
4,823.3マイル	4,190.6マイル	5,932.0マイル	7,713.2マイル	6,980.3マイル
617群	195群	328群	1,125群	849群
2群	2群	2群	8群	5群
8群	8群	2群	4群	8群
2群	1群	—	—	1群
8群	17群	22群	6群	12群
3群	5群	88群	82群	37群
17群	11群	16群	19群	22群
昭南丸	昭南丸	昭南丸	昭南丸	昭南丸
第2昭南丸	第2昭南丸	第2昭南丸	第2昭南丸	第2昭南丸
Vdumchiviyi No.34 (ソ連)	第27京丸	第27京丸	第27京丸	第27京丸
—	Vdumchiviyi No.34 (ソ連)	Vdumchiviyi No.34 (ソ連)	Vyderzhannyi No.36 (ソ連)	Vdumchiviyi No.34 (ソ連)
Durant Hembree* (オーストラリア) Jorge F. Mermoz (アルゼンチン) 宮下富夫 (日本)	Paul Ensor (ニュージーランド) 宮下富夫 (日本) C. Edward Bowlby (アメリカ)	Durant Hembree (オーストラリア) 河浦勝二 (日本) Alan Ward (イギリス)	Gerald G. Joyce* (アメリカ) 河浦勝二 (日本) 西脇茂利 (日本)	Gerald G. Joyce* (アメリカ) C. Edward Bowlby (アメリカ) 河浦勝二 (日本)
Gerald G. Joyce (アメリカ) 笠松不二男 (日本) W. Church (アメリカ)	Gerald G. Joyce* (アメリカ) 秦 敏男 (日本) Luis A. Pastene (チリ)	Gerald G. Joyce* (アメリカ) C. Edward Bowlby (アメリカ) 西脇茂利 (日本)	笠松不二男 (日本) Barry Troutman (アメリカ) Kanneth C. Balcomb (アメリカ)	Richard A. Rowlett (アメリカ) Jorge F. Mermoz (アルゼンチン) Allan Ward (イギリス) 重宗弘久 (日本)
Richard A. Rowlett (アメリカ) Paul Ensor (ニュージーランド) A. Galeazzi (アルゼンチン) A. Karpenko (ソ連)	笠松不二男 (日本) David Thompson (イギリス) Barry Troutman (アメリカ)	笠松不二男 (日本) Paul Ensor (ニュージーランド) Luis A. Pastene (チリ)	Jorge F. Mermoz (アルゼンチン) Larry Tsunoda (アメリカ) 重宗弘久 (日本)	笠松不二男 (日本) Mike Meyer (南アフリカ) Barry Troutman (アメリカ)
—	Richard A. Rowlett (アメリカ) A. Karpenko (ソ連) Jorge F. Mermoz (アルゼンチン) Shannon Fitzgerald (アメリカ)	Richard A. Rowlett (アメリカ) Jorge F. Mermoz (アルゼンチン) V. Yukhov (ソ連)	Richard A. Rowlett (アメリカ) Allan Ward (イギリス) V. Yukhov (ソ連)	Durant Hembree (オーストラリア) 西脇茂利 (日本) Nikolay Doroshenko (ソ連) Alexander Zorin (ソ連)
山下一彦船長以下18名	Suzuki Shigeru 船長以下18名	山下一彦船長以下17名	山下一彦船長以下17名	Suzuki Shigeru 船長以下17名
Uchiike Ikuo 船長以下18名	中西三次船長以下17名	Suzuki Shigeru 船長以下17名	Uchiike Ikuo 船長以下17名	Yokota Fumio 船長以下17名
—	Yokota Fumio 船長以下18名	Yokota Fumio 船長以下18名	中西三次船長以下18名	吉良政利船長以下18名
—	XX 船長以下XX名	XX 船長以下XX名	XX 船長以下31名	XX 船長以下XX名

資料

調査年次		第10次 (1987/88) IDCR (CPII : 2周目)	第11次 (1988/89) IDCR (CPII : 2周目)	第12次 (1989/90) IDCR (CPII : 2周目)	第13次 (1990/91) IDCR (CPII : 2周目)
調査目的					
調査海域		III	IV	I	VI
航海期間	出港	1987.12.11 (フリーマントル)	1988.12.21 (フリーマントル)	1989.12.26 (ウシュアイア)	1990.12.29 (ウェリントン)
	入港	1988.2.8 (ポートルイス)	1989.2.20 (フリーマントル)	1990.2.19 (ウェリントン)	1991.2.23 (ウェリントン)
調査期間	開始	1987.12.20	1988.12.29	1989.12.28	1991.1.3
	終了	1988.1.25 (37日間)	1989.2.11 (45日間)	1990.2.10 (45日間)	1991.2.11 (40日間)
総探索距離		5,399.1マイル	4,445.7マイル	5,411.1マイル	3,612.9マイル
主要発見鯨種	クロミンククジラ	319群	454群	508群	155群
	シロナガスクジラ	4群	—	3群	2群
	ナガスクジラ	8群	—	3群	10群
	イワシクジラ	—	1群	4群	1群
	ザトウクジラ	12群	47群	24群	23群
	マッコウクジラ	62群	123群	11群	31群
	シャチ	5群	30群	14群	8群
使用船舶	調査船1	昭南丸	昭南丸	昭南丸	昭南丸
	調査船2	第2昭南丸	第2昭南丸	第2昭南丸	第2昭南丸
	調査船3	—	—	—	—
	調査船4	—	—	—	—
調査員 *: 調査団長	調査船1	Gerald G. Joyce* (アメリカ) 重宗弘久 (日本) Barry Troutman (アメリカ)	笠松不二男* (日本) Jorge F. Mermoz (アルゼンチン) Alexander Zorin (ソ連) Vera da Silva (ブラジル)	Gerald G. Joyce (アメリカ) 西脇茂利 (日本) Carolina Sanpera (スペイン)	Gerald G. Joyce* (アメリカ) 西脇茂利 (日本) Genevieve Desportes (デンマーク)
	調査船2	笠松不二男 (日本) Paul Ensor (ニュージーランド) Richard A. Rowlett (アメリカ)	Paul Ensor (ニュージーランド) 重宗弘久 (日本) Michael Newcomer (アメリカ)	Paul Ensor (ニュージーランド) Jorge F. Mermoz (アルゼンチン) 堤 裕史 (日本)	Paul Ensor (ニュージーランド) Jorge F. Mermoz (アルゼンチン) 大泉 宏 (日本) Finn Danielsen (デンマーク)
	調査船3	—	—	—	—
	調査船4	—	—	—	—
乗組員	調査船1	山下一彦船長以下17名	中西三次船長以下17名	吉良政利船長以下17名	中西三次船長以下17名
	調査船2	中西三次船長以下17名	大和田厚船長以下17名	原 哲夫船長以下17名	釣井年祝船長以下17名
	調査船3	—	—	—	—
	調査船4	—	—	—	—
特記事項					

第14次 (1991/92) IDCR (CPIII : 3周目)	第15次 (1992/93) IDCR (CPIII : 3周目)	第16次 (1993/94) IDCR (CPIII : 3周目)	第17次 (1994/95) IDCR (CPIII : 3周目)	第18次 (1995/96) SOWER (CPIII : 3周目)
V	III W	I	III E, IV W	VI W
1991.12.21 (ウェリントン)	1992.12.17 (ケープタウン)	1993.12.23 (ウェリントン)	1995.1.5 (ケープタウン)	1996.1.6 (ホバート)
1992.2.17 (ウェリントン)	1993.2.16 (フリーマントル)	1994.2.21 (パルバライン)	1995.3.6 (フリーマントル)	1996.3.4 (ウェリントン)
1991.12.31	1992.12.25	1994.1.3	1995.1.13	1996.1.14
1992.2.8 (40日間)	1993.2.4 (42日間)	1994.2.14 (43日間)	1995.2.25 (44日間)	1996.2.21 (39日間)
3,731.8マイル	5,289.5マイル	4,839.5マイル	4,300.3マイル	3,381.2マイル
573群	345群	234群	224群	181群
4群	7群	3群	7群	5群
2群	—	3群	—	18群
—	1群	4群	—	5群
23群	7群	18群	34群	17群
79群	109群	13群	44群	17群
26群	9群	7群	8群	6群
昭南丸	昭南丸	昭南丸	昭南丸	昭南丸
第2昭南丸	第2昭南丸	第2昭南丸	第2昭南丸	第2昭南丸
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
Paul Ensor* (ニュージーランド) 西脇茂利 (日本) Michael Newcomer (アメリカ)	西脇茂利 (日本) Ken Findlay (南アフリカ) B. Abernethy (南アフリカ)	Paul Ensor* (ニュージーランド) ルイスA. バステネ (日本) Micheline-Nicole Janner (オーストラリア)	Paul Ensor* (ニュージーランド) Miranda Brown (オーストラリア) 川崎真弘 (日本)	Paul Ensor* (ニュージーランド) Peter Corkeron (オーストラリア) 松岡耕二 (日本)
Richard A. Rowlett (アメリカ) Jorge F. Mermoz (アルゼンチン) 島田裕之 (日本) Jimmy Hansen (デンマーク)	Richard A. Rowlett* (アメリカ) 島田裕之 (日本) Genevieve Desportes (デンマーク)	島田裕之 (日本) Jorge F. Mermoz (アルゼンチン) Robert Pitman (アメリカ)	島田裕之 (日本) Martin Cawthorn (ニュージーランド) Ken Findlay (南アフリカ)	Martin Cawthorn (ニュージーランド) Robert Pitman (アメリカ) 関口圭子 (日本)
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
吉良政利船長以下17名	吉良政利船長以下17名	安永徳勝船長以下17名	原 哲夫船長以下17名	炭原得也船長以下17名
小野寺栄吾船長以下17名	大和田厚船長以下17名	五味克治船長以下17名	五味克治船長以下17名	成田英憲船長以下17名
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

資料

調査年次		第19次 (1996/97) SOWER (CPIII : 3周目)	第20次 (1997/98) SOWER (CPIII : 3周目)	第21次 (1998/99) SOWER (CPIII : 3周目)	第22次 (1999/00) SOWER (CPIII : 3周目)
調査目的					
調査海域		II E	II W	IV	I E, II W
航海期間	出港	1997.1.7 (ケープタウン)	1998.1.14 (プンタ・アレナス)	1998.12.31 (ケープタウン)	2000.1.6 (バルパライソ)
	入港	1997.2.26 (ケープタウン)	1998.2.26 (ケープタウン)	1999.3.1 (ホバート)	2000.2.18 (プンタ・アレナス)
調査期間	開始	1997.1.16	1998.1.18	1999.1.20	2000.1.15
	終了	1997.2.14 (30日間)	1998.2.14 (28日間)	1999.2.22 (34日間)	2000.2.13 (30日間)
総探索距離		3,338マイル	3,065.3マイル	3,833.2マイル	1,813.7マイル
主要発見鯨種	クロミンククジラ	147群	118群	200群376頭	61群112頭
	シロナガスクジラ	5群	6群	7群10頭	1群1頭
	ナガスクジラ	—	20群	42群187頭	103群413頭
	イワシクジラ	—	6群	—	41群85頭
	ザトウクジラ	14群	9群	321群629頭	137群295頭
	マッコウクジラ	13群	1群	151群162頭	17群38頭
	シャチ	4群	8群	17群324頭	17群178頭
使用船舶	調査船1	昭南丸	昭南丸	昭南丸	昭南丸
	調査船2	第2昭南丸	第2昭南丸	第2昭南丸	第2昭南丸
	調査船3	—	—	—	—
	調査船4	—	—	—	—
調査員 *: 調査団長	調査船1	Paul Ensor* (ニュージーランド) Sharon Hedley (イギリス) 山際大志郎 (日本)	Paul Ensor* (ニュージーランド) Sharon Hedley (イギリス) 岩上 寛 (日本) Robert Pitman (アメリカ)	Paul Ensor* (ニュージーランド) Janet Doherty (アメリカ) Lars Kleivane (ノルウェー) 松岡耕二 (日本)	Paul Ensor* (ニュージーランド) Lars Kleivane (ノルウェー) Donald Ljungblad (アメリカ) 関口圭子 (日本)
	調査船2	Ken Findlay (南アフリカ) Robert Pitman (アメリカ) 関口圭子 (日本)	ルイスA. パステネ (日本) Martin Cawthorn (ニュージーランド) Ken Findlay (南アフリカ) Lars Kleivane (ノルウェー)	関口圭子 (日本) Donald Ljungblad (アメリカ) Fernanda Marques (ブラジル) Robert Pitman (アメリカ)	Ken Findlay (南アフリカ) Rodrigo Hucke-Gaete (チリ) Fernanda Marques (ブラジル) 島田裕之 (日本)
	調査船3	—	—	—	—
	調査船4	—	—	—	—
乗組員	調査船1	原 哲夫船長以下17名	釣井年祝船長以下17名	阪井一志船長以下19名	三浦敏行船長以下19名
	調査船2	釣井年祝船長以下17名	阪井一志船長以下17名	成田英憲船長以下19名	小宮博幸船長以下18名
	調査船3	—	—	—	—
	調査船4	—	—	—	—
特記事項					

資料

調査年次		第28次 (2005/06) SOWER (EX:特別航海)	第29次 (2006/07) SOWER (EX:特別航海)	第30次 (2007/08) SOWER (EX:特別航海)	第31次 (2008/09) SOWER (EX:特別航海)
調査目的					
調査海域		III W	III W	IV	IV
航海期間	出港	2005.12.22 (ケープタウン)	2006.12.21 (ケープタウン)	2007.12.24 (フリーマントル)	2008.1.6 (ペノア)
	入港	2006.2.25 (ケープタウン)	2007.2.23 (ケープタウン)	2008.2.26 (ペノア)	2009.2.26 (ペノア)
調査期間	開始	2006.1.18	2007.1.4	2007.12.31	2008.1.19
	終了	2006.2.13 (31日間)	2007.2.13 (41日間)	2008.2.13 (45日間)	2009.2.12 (25日間)
総探索距離		3,154.3マイル	2,758.1マイル	2,975.3マイル	2,416.0マイル
主要発見鯨種	クロミンククジラ	349群931頭	536群1788頭	29群65頭	46群54頭
	シロナガスクジラ	31群60頭	53群121頭	1群2頭	7群17頭
	ナガスクジラ	31群260頭	24群59頭	14群42頭	7群27頭
	イワシクジラ	—	1群1頭	5群10頭	—
	ザトウクジラ	202群532頭	115群272頭	301群514頭	397群739頭
	マッコウクジラ	40群43頭	30群30頭	25群26頭	66群79頭
	シャチ	10群75頭	7群80頭	9群62頭	26群368頭
使用船舶	調査船1	第二昭南丸	第二昭南丸	第二昭南丸	第二昭南丸
	調査船2	—	—	—	—
	調査船3	—	—	—	—
	調査船4	—	—	—	—
調査員 *: 調査団長	調査船1	Paul Ensor* (ニュージーランド) Paula Olson (アメリカ) Kate Stafford (アメリカ) 関口圭子 (日本)	Paul Ensor* (ニュージーランド) Paula Olson (アメリカ) Isabel Beasley (ニュージーランド) 福留和貴 (日本)	Paul Ensor* (ニュージーランド) Paula Olson (アメリカ) Kate Stafford (アメリカ) 関口圭子 (日本)	Paul Ensor* (ニュージーランド) Paula Olson (アメリカ) Sanna Kuningas (アメリカ) 熊谷佐枝子 (日本)
	調査船2	—	—	—	—
	調査船3	—	—	—	—
	調査船4	—	—	—	—
乗組員	調査船1	小宮博幸船長以下19名	小宮博幸船長以下19名	南 浄邦船長以下19名	小宮博幸船長以下18名
	調査船2	—	—	—	—
	調査船3	—	—	—	—
	調査船4	—	—	—	—
特記事項					

IDCR/SOWER 南半球産ミンククジラ資源評価航海に国際調査員として参加した日本関連の人の名簿

第32次 (2009/10)
SOWER (EX:特別航海)
IV
2009.12.23 (ベノア)
2010.2.22 (ベノア)
2010.1.7
2010.2.7 (32日間)
2,352.7マイル
78群140頭
—
4群9頭
1群1頭
191群357頭
39群41頭
11群91頭
海幸丸
—
—
—
関口圭子* (日本)
Laura Morse (アメリカ)
Cornelia Oedekoven (ドイツ)
福留和貴 (日本)
—
—
—
—
新屋敷芳徳船長以下19名
—
—
—

年度	氏名 (所属)
1978/79	山村和夫 (共同捕鯨)、加藤秀弘 (北大)
1979/80	加藤秀弘 (鯨研)、笠松不二夫 (共同捕鯨)
1980/81	加藤秀弘 (鯨研)、笠松不二夫 (共同捕鯨)、宮崎信之 (科博)
1981/82	笠松不二夫 (共同捕鯨)、長田昭二 (共同捕鯨)
1982/83	笠松不二夫 (共同捕鯨)、宮下富夫 (遠水研)
1983/84	笠松不二夫 (共同捕鯨)、宮下富夫 (遠水研)、泰 敏男 (共同捕鯨)、Luis Pastene (チリ)
1984/85	笠松不二夫 (共同捕鯨)、西脇茂利 (捕鯨協会)、河浦勝二 (共同捕鯨)、Luis Pastene (チリ)
1985/86	笠松不二夫 (共同捕鯨)、西脇茂利 (捕鯨協会)、河浦勝二 (共同捕鯨)、重宗弘久 (共同捕鯨)
1986/87	笠松不二夫 (共同捕鯨)、西脇茂利 (捕鯨協会)、河浦勝二 (共同捕鯨)、重宗弘久 (共同捕鯨)
1987/88	笠松不二夫 (日鯨研)、重宗弘久 (捕鯨協会)、中西三次 (共船)、山下一彦 (共船)
1988/89	笠松不二夫 (日鯨研)、重宗弘久 (共船)、中西三次 (共船)、大和田厚 (共船)
1989/90	西脇茂利 (日鯨研)、堤 裕史 (日鯨研)、原 哲夫 (共船)、吉良政利 (共船)
1990/91	西脇茂利 (日鯨研)、大泉 宏 (日鯨研)、中西三次 (共船)、釣井年祝 (共船)
1991/92	西脇茂利 (日鯨研)、島田裕之 (遠水研)、小野寺栄吾 (共船)、吉良政利 (共船)
1992/93	西脇茂利 (日鯨研)、島田裕之 (遠水研)、吉良政利 (共船)、大和田厚 (共船)
1993/94	Luis Pastene (日鯨研)、島田裕之 (遠水研)、安永徳勝 (共船)、五味克治 (共船)
1994/95	川崎真弘 (日鯨研)、島田裕之 (遠水研)、五味克治 (共船)、原 哲夫 (共船)
1995/96	松岡耕二 (日鯨研)、関口圭子 (日鯨研)、成田英憲 (共船)、炭原得也 (共船)
1996/97	島田裕之 (遠水研)、関口圭子 (日鯨研)、山際大志郎 (東大)、原 哲夫 (共船)、釣井年祝 (共船)
1997/98	島田裕之 (遠水研)、岩上 寛 (東大)、釣井年祝 (共船)、阪井一志 (共船)
1998/99	松岡耕二 (日鯨研)、関口圭子 (日鯨研)、成田秀則 (共船)、阪井一志 (共船)
1999/00	島田裕之 (遠水研)、小宮博幸 (共船)、三浦敏行 (共船)
2000/01	松岡耕二 (日鯨研)、村瀬弘人 (日鯨研)、三浦敏行 (共船)、阪井一志 (共船)
2001/02	刈谷達也 (日鯨研)、関口圭子 (ハワイ大)、成田英憲 (共船)、小宮博幸 (共船)
2002/03	松岡耕二 (日鯨研)、恒川雅臣 (共船)、広瀬喜代治 (共船)、南 浄邦 (共船)
2003/04	松岡耕二 (日鯨研)、関口圭子 (ハワイ大)、三浦敏行 (共船)、森 正克 (共船)、広瀬喜代治 (共船)
2004/05	関口圭子 (ハワイ大)、吉村 勇 (共船)、広瀬喜代治 (共船)、小宮博幸 (共船)
2005/06	関口圭子 (ハワイ大)、小宮博幸 (共船)
2006/07	福留和貴 (共船)、津田保成 (共船)、小宮博幸 (共船)
2007/08	関口圭子 (ハワイ大)、南 浄邦 (共船)
2008/09	熊谷佐枝子 (日鯨研)、津田保成 (共船)、小宮博之 (共船)
2009/10	関口圭子 (ハワイ大)、福留和貴 (共船)、新屋敷良典 (海幸船船)

POWER

調査年次		第1次(2010)	第2次(2011)	第3次(2012)	第4次(2013)
調査目的		1. イワシクジラ（及びナガスクジラ等その他の鯨種）の資源量推定 2. イワシクジラ、ナガスクジラ及びマッコウクジラ（及びその他の鯨種）の系群構造に関する情報の収集（特にバイオプシー・サンプルの採集） 3. 北太平洋セミクジラ、シロナガスクジラ等希少鯨種の個体識別写真撮影及びバイオプシー・サンプルの採集	1. イワシクジラ（及びナガスクジラ等その他の鯨種）の資源量推定 2. イワシクジラ、ナガスクジラ及びマッコウクジラ（及びその他の鯨種）の系群構造に関する情報の収集（特にバイオプシー・サンプルの採集） 3. 北太平洋セミクジラ、シロナガスクジラ等希少鯨種の個体識別写真撮影及びバイオプシー・サンプルの採集	1. イワシクジラ（及びナガスクジラ等その他の鯨種）の資源量推定 2. イワシクジラ、ナガスクジラ、ザトウクジラ及びマッコウクジラ（及びその他の鯨種）の系群構造に関する情報の収集（特にバイオプシー・サンプルの採集及び個体識別写真） 3. 北太平洋セミクジラ、シロナガスクジラ等希少鯨種の個体識別写真撮影及びバイオプシー・サンプルの採集	1. イワシクジラ、ナガスクジラその他の鯨種の資源量推定 2. イワシクジラ、ナガスクジラ、ザトウクジラ及びマッコウクジラ（及びその他の鯨種）の系群構造に関する情報の収集（特にバイオプシー・サンプルの採集及び個体識別写真） 3. 北太平洋セミクジラ、シロナガスクジラ等希少鯨種の個体識別写真撮影及びバイオプシー・サンプルの採集
調査海域		北緯40度以北、アリューシャン列島以南、西経170度以東-西経170度以西（公海及びアメリカEEZを含む）	北緯40度以北、アリューシャン列島以南、西経170度以東-西経150度以西（公海及びアメリカEEZを含む）	北緯40度以北、アメリカのアラスカ州以南、西経150度以東-西経135度以西（公海及びアメリカ・カナダEEZを含む）	北緯30度以北、同40度以南、西経160度以東、西経135度以西（公海）
航海期間	出港	2010.7.2（釧路）	2011.7.11（下関）	2012.7.13（塩釜）	2013.7.12（塩釜）
	入港	2010.8.31（釧路）	2011.9.8（函館）	2012.9.10（塩釜）	2013.9.9（塩釜）
調査期間	開始	2010.7.7	2011.7.21	2012.7.24	2013.7.23
	終了	2010.8.25（50日間）	2011.8.31（42日間）	2012.8.30（38日間）	2013.8.23（32日間）
総探索距離		1,986.3マイル	3,097.8マイル	2,676.6マイル	4,342.2マイル
主要発見鯨種		シロナガスクジラ：5群5頭 ナガスクジラ：28群55頭 イワシクジラ：62群118頭 ミンククジラ：8群8頭 ザトウクジラ：5群8頭 マッコウクジラ：75群92頭 シャチ：10群102頭	シロナガスクジラ：10群10頭 ナガスクジラ：82群141頭 イワシクジラ：58群95頭 ミンククジラ：2群2頭 ザトウクジラ：76群133頭 マッコウクジラ：95群119頭 シャチ：7群70頭	シロナガスクジラ：4群4頭 ナガスクジラ：149群210頭 イワシクジラ：87群164頭 ミンククジラ：2群2頭 ザトウクジラ：21群33頭 セミクジラ：1群1頭 マッコウクジラ：50群57頭 シャチ：17群99頭	ナガスクジラ：3群3頭 イワシクジラ：4群4頭 ニタリクジラ：54群64頭 ミンククジラ：1群1頭 マッコウクジラ：67群99頭
標本数： バイオプシー/ 個体識別写真		シロナガスクジラ：1頭/5頭 ナガスクジラ：2頭/— イワシクジラ：13頭/— ザトウクジラ：—/5頭 マッコウクジラ：—/4頭 シャチ：2頭/45頭	シロナガスクジラ：4頭/9頭 ナガスクジラ：12頭/25頭 イワシクジラ：31頭/27頭 ニタリクジラ：1頭/— ザトウクジラ：—/48頭	シロナガスクジラ：2頭/4頭 ナガスクジラ：12頭/60頭 イワシクジラ：37頭/51頭 ザトウクジラ：—/26頭 セミクジラ：—/1頭 マッコウクジラ：—/1頭 シャチ：1頭/47頭	ナガスクジラ：1頭/3頭 イワシクジラ：1頭/2頭 ニタリクジラ：6頭/6頭
海洋漂流物		33件	132件	230件	1,508件
使用船舶	調査船	海幸丸	第三勇新丸	第三勇新丸	第三勇新丸
船団構成	調査団長	松岡耕二（日本）	松岡耕二（日本）	松岡耕二（日本）	松岡耕二（日本）
	調査員	Siri Hakala（アメリカ） Hyun Woo Kim（韓国） 安芸元紀（日本）	Sally Mizroch（アメリカ）	Sally Mizroch（アメリカ） Yong-Rock An（韓国） 熊谷佐枝子（日本）	Hyun Woo Kim（韓国） Sergio Martinez-Aguilar（メキシコ） 熊谷佐枝子（日本）
	乗組員	新屋敷芳徳船長以下19名	小宮博幸船長以下18名	廣瀬喜代治船長以下16名	佐々木安昭船長以下17名
特記事項					

第5次(2014)	第6次(2015)	第7次(2016)	第8次(2017)
1. ニタリクジラ、イワシクジラ、ナガスクジラ、その他の鯨類の資源量推定 2. ニタリクジラ、イワシクジラ、ナガスクジラ、ザトウクジラ及びマッコウクジラ（及びその他の鯨種）の系群構造に関する情報の収集（特にバイオプシー・サンプルの採集及び個体識別写真） 3. 北太平洋セミクジラ、シロナガスクジラ等希少鯨種の個体識別写真撮影及びバイオプシー・サンプルの採集	1. ニタリクジラ、イワシクジラ、ナガスクジラ、その他の鯨類の資源量推定 2. ニタリクジラ、イワシクジラ、ナガスクジラ、ザトウクジラ及びマッコウクジラ（及びその他の鯨種）の系群構造に関する情報の収集（特にバイオプシー・サンプルの採集及び個体識別写真） 3. 北太平洋セミクジラ、シロナガスクジラ等希少鯨種の個体識別写真撮影及びバイオプシー・サンプルの採集	1. ニタリクジラ、イワシクジラ、ナガスクジラ、その他の鯨類の資源量推定 2. ニタリクジラ、イワシクジラ、ナガスクジラ、ザトウクジラ及びマッコウクジラ（及びその他の鯨種）の系群構造に関する情報の収集（特にバイオプシー・サンプルの採集及び個体識別写真） 3. 北太平洋セミクジラ、シロナガスクジラ等希少鯨種のバイオプシー・サンプルの採集及び個体識別写真の撮影	1. イワシクジラ、ザトウクジラならびにコククジラの詳細資源評価に関する情報収集 2. 希少種である東太平洋のセミクジラ資源に関する情報収集 3. ナガスクジラ等の北限に関する情報収集 4. 過去の捕獲により減少したが現在の資源状況が不明なものを含む、知見が不足している鯨類資源に関する情報収集 5. 本プログラムの中長期計画の立案に関する情報収集
北緯30度以北、同40度以南、東経170度以東、西経160度以西（公海及びアメリカEEZ含む）	北緯20度以北、同30度以南、東経170度以東、西経160度以西（公海及びアメリカEEZを含む）	北緯20度以北、同30度以南、西経160度以東、西経135度以西（公海及びアメリカEEZを含む）	アリューシャン列島以北、北緯66度以南、西経175度以東、西経157度以西の海域（アメリカEEZ）
2014.7.2（塩釜）	2015.7.2（塩釜）	2016.7.2（塩釜）	2017.7.3（下関）
2014.8.30（塩釜）	2015.8.30（塩釜）	2016.8.30（塩釜）	2017.9.25（横須賀）
2014.7.8	2015.7.11	2016.7.19	2017.7.16
2014.8.17（41日間）	2015.8.22（44日間）	2016.8.21（29日間）	2017.9.10（60日間）
3,761.1マイル	4305.5マイル	3,443.8マイル	1,989.9マイル
シロナガスクジラ：1群1頭 イワシクジラ：1群1頭 ニタリクジラ：118群140頭 マッコウクジラ：78群155頭 シャチ：1群3頭	ニタリクジラ：46群52頭 マッコウクジラ：32群93頭 シャチ：1群4頭	シロナガスクジラ：1群1頭 イワシクジラ：1群1頭 ニタリクジラ：28群32頭 マッコウクジラ：32群115頭	ナガスクジラ：145群198頭 ミンククジラ：17群20頭 ザトウクジラ：136群165頭 セミクジラ：7群15頭 コククジラ：15群22頭 マッコウクジラ：25群33頭 シャチ：32群134頭
シロナガスクジラ：1頭/1頭 ニタリクジラ：78頭/69頭 シャチ：1頭/3頭	ニタリクジラ：34頭/43頭 マッコウクジラ：1頭/37頭 シャチ：2頭/4頭	シロナガスクジラ：1頭/— イワシクジラ：1頭/— ニタリクジラ：16頭/14頭 マッコウクジラ：5頭/7頭	ナガスクジラ：28頭/55頭 ザトウクジラ：18頭/34頭 セミクジラ：3頭/12頭 コククジラ：9頭/14頭 シャチ：2頭/56頭
247件	199件	153件	12件
第三勇新丸	第三勇新丸	第三勇新丸	第三勇新丸
松岡耕二（日本）	松岡耕二（日本）	松岡耕二（日本）	松岡耕二（日本）
Sally Mizroch（アメリカ） Jessica Taylor（イギリス/アメリカ） 吉村 勇（日本）	James Gilpatrick（アメリカ） Jessica Taylor（イギリス/アメリカ） 吉村 勇（日本）	James Gilpatrick（アメリカ） JiHye Kim（韓国） 吉村 勇（日本）	Jessica Crance（アメリカ） Jessica Taylor（イギリス/アメリカ） 吉村 勇（日本）
山内善行船長以下17名	大越親正船長以下17名	江口浩司船長以下17名	葛西英則船長以下17名
			音響機器による鯨類の鳴音録音：合計240観測点において合計約841時間の鳴音モニタリングを実施